

## 2014年5月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、北極海で負偏差、それを囲む高緯度帯で正偏差が卓越した。ベーリング海付近とロシア西部では顕著なりッジとなった。亜熱帯ジェット気流は、西アジアや日本付近から太平洋中部付近にかけて南偏した。寒帯前線ジェット気流は、ユーラシア大陸で明瞭だった。50～60°N の対流圏では顕著な高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、アフリカ、インド洋、太平洋東部で平年より活発、フィリピン付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬と下旬にインド洋を東進した。対流圏下層の赤道域では太平洋で西風偏差となった。対流圏上層では、南西アジアで低気圧性循環偏差、中国付近で高気圧性循環偏差となった。南方振動指数は+0.7だった。

### 世界の天候

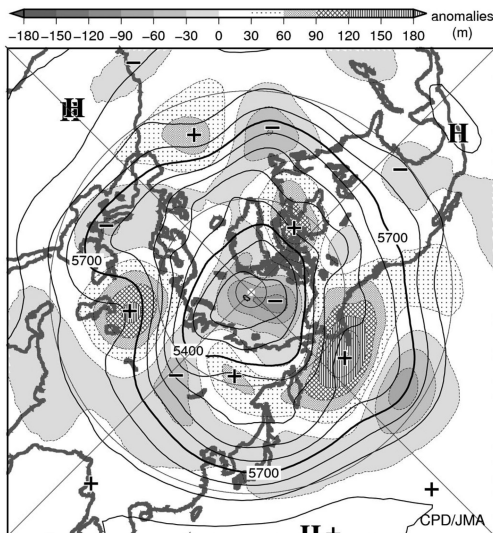
2014年5月の世界の月平均気温偏差は+0.31°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。5月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.69°C/100年（速報値）である。主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中央アジア西部及びその周辺では異常高温となった。
- ヨーロッパ東部～北西部では異常多雨となった。
- カナダ南西部～メキシコ西部では異常高温となった。

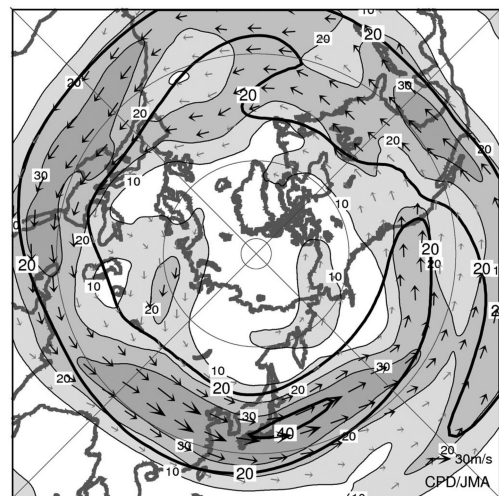
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

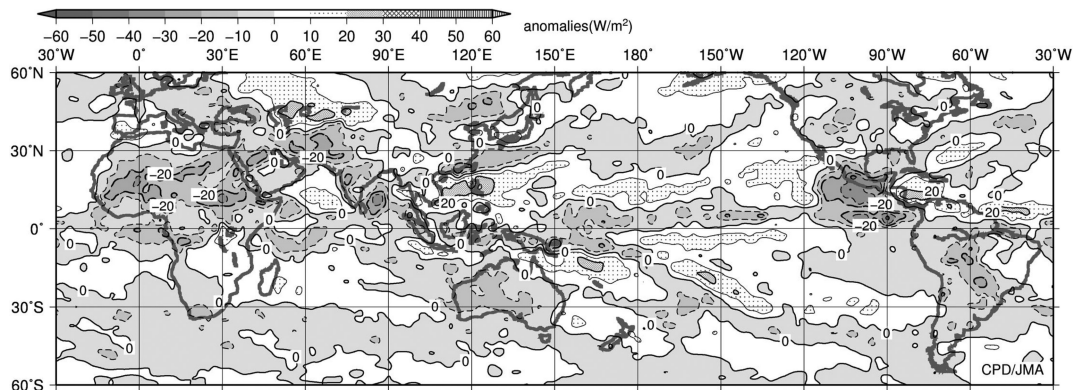
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2014年5月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差  
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

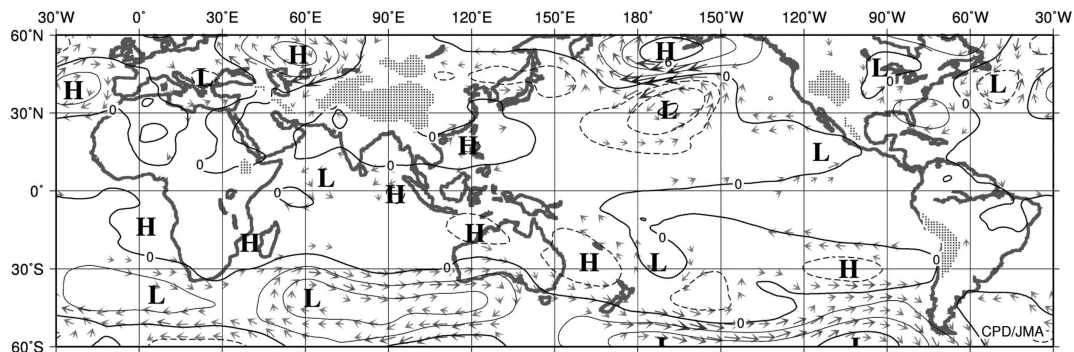


2014年5月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル  
等値線間隔は10 m/s。太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年の平均値。



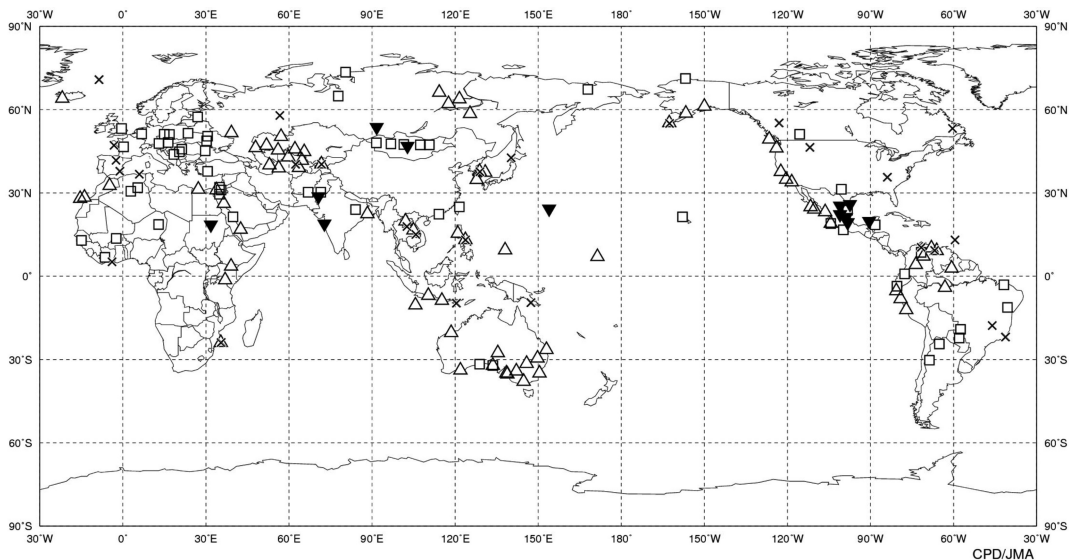
2014年5月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2014年5月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2014年5月の世界の異常天候分布図

△異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。